

日光 東照宮 何でも知識!

東照宮は徳川家康を祭る大規模な宮。寛永3年(1636)3代将軍の徳川家光が全国から一流の名工を集め、膨大な費用を投じて完成させた。社殿は扇状に広がり、五重塔、三神庫など豪華絢爛な55の建物が立つ。建造物の随所に見られる神仏混同の建築様式に、かつての三所権現信仰の時代が偲ばれる。

『五重塔』 について・・・

慶安3年(1650) 若狭藩藩主 酒井忠勝により創建
落雷により消失するが、文政元年(1818)酒井中近により再建される。

特 徴

高さ約35m、初層から4層まで和様、最上層のみ唐様の建築様式。
塔の全面には動物の彫刻が施され、よく見ると子、丑、寅、・・・の順に十二支が有り、方角を指していると言われています。

『神厩舎』 (しんきゅうしゃ) について・・・

「見ざる、言わざる、聞かざる。」の三猿が飾られていることで有名。
本来ここは神馬をつないでおく場所。今でも、午前10:00~午後2:00ぐらいまで、神馬の姿を見ることが出来ます。

三猿をはじめ、猿の彫刻がたくさんあるが、古くから猿は馬の守り神と言われたためである。夫婦の猿、妊娠している猿など8態があり、人間の一生を風刺して描かれたと言われています。

『三神庫』 (さんじんこ) について・・・

三棟の朱塗りの美しい建物、下神庫、中神庫、上神庫の順に並び総称して「三神庫」と呼ばれています。

上神庫の側面には、見慣れない2頭の象の彫刻が施されています、これは「想像の象」といわれ、実物の象を見たことがない「狩野探幽」という人が下絵を描いているため、本物の象とは異なる点が多いのです。